

みずくらいど

校長 加藤雅弘

自分や周囲の命も、自らの考え・判断・行動で

「みずくらいど」、ハイブリッド対応の間は発行しておりませんでしたので、令和4年に入って初めてになります。

3月10日、久しぶりのズーム朝会を行いました。そこで話題にしたのは、東日本大震災と東京大空襲です。前者では、大きな被害にあった学校をそのまま保存してある写真から「忘れないため」であることを知らせるとともに、言い伝えを守って自分たちの判断で高台に避難し、周囲の人たちの命を守った子供たちの話をしました。地震が来たら津波が来る前に逃げることの大切さが認識され、新たにその行動を促す石碑が建てられています。また、遙か昔の災害を伝える石碑も掘り起こされ、新たに人目に就く場所に再建されている例が多数あることにも触れました。改めて言い伝えの大切さに気付き、忘れないように取り組みをしています。

今年度の避難訓練では常に、自分の命は自分で守ること、たとえ低学年であっても、登下校、留守番など状況によっては自分より年下の子供の命を守る場合もあることを伝えてきました。その際、「なぜ、その行動がよいのか」を理解しておくこと、それを基に状況に応じて判断すること、そして実際に行動することが重要になります。

またこの日は77年前、東京大空襲があった日でもありました。一晩で10万人以上の方々 が亡くなるという世界史上でも最大級の被害があった日です。残念ながら、東京都民でも、そのことをあまり知らないことが多いのが現状です。私の母親は17才で体験していて、隣の家に爆弾が落ち、必死で消し止めた話を聞いていました。足立区を含めた東部の被害の大きさや惨状については資料の範囲でしか知りません。震災と同様に、伝え聞き、今度は私たちが伝える側になっていく必要があると感じています。朝会では、もしご親族に体験した方がいらっしゃれば、是非話を聞いてほしいと話しました。

戦争が起こるとどんなことになってしまうのか、まずはそれを知ることが大切です。それを起点として、なぜ、戦争が起こってしまうのかなどは今後学んでいきますが、一番大切なのは、戦争が起きないようにするには、どうすればよいのか、一人一人が、考え、判断し、行動することです。

自然災害も人が引き起こす戦争も、被害を最小限にとどめるのは、人々の知恵と勇気と責任のある行動です。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、自分ごととして考え、黙とうをささげました。